

ディーラーマニュアル

ホイールセット

ROAD

WH-6700
WH-RS80-C50
WH-RS80-A-C24
WH-RS30-A
WH-RS10-A
WH-R501-30
WH-R501

MTB

WH-M785-F
WH-M785-R
WH-M788-R
WH-M785-F15
WH-M788-F15

SM-RIMTAPE

目次

重要なお知らせ	3
---------------	---

安全のために	4
--------------	---

ROAD

取付け	10
-----------	----

タイヤサイズ	10
--------------	----

使用工具一覧	10
--------------	----

HGギアの取付け	11
----------------	----

メンテナンス	12
--------------	----

スポークの編み方	12
----------------	----

スポークの交換	14
---------------	----

フリーホイール部の交換	16
-------------------	----

チューブレスタイヤの脱着方法	17
----------------------	----

MTB

取付け	20
-----------	----

タイヤサイズ	20
--------------	----

使用工具一覧	20
--------------	----

HGギアの取付け	21
----------------	----

ディスクブレーキローターの取付け	22
------------------------	----

メンテナンス	23
--------------	----

スポークの編み方	23
----------------	----

スポークの交換	24
---------------	----

分解と組立	25
-------------	----

フリーホイール部の交換	28
-------------------	----

チューブレスタイヤの脱着方法	29
----------------------	----

重要なお知らせ

- ディーラーマニュアルは自転車安全整備士、自転車技士など専門知識を有する方を対象としています。専門知識のないユーザーがディーラーマニュアルを参照して、部品を取付けないでください。記載されている内容に不明な点がある場合は絶対にご自身で作業せず、購入された販売店、または代理店へご相談ください。
- 各製品に付属している取扱説明書も併せてよくお読みください。
- ディーラーマニュアルに書かれていない製品の分解、改造はおこなわないでください。
- 全ての取扱説明書、ディーラーマニュアルはウェブサイト(<http://si.shimano.com>)でご覧いただけます。
- 地域のルールや法律に従って製品をご使用ください。

安全のため、必ずこのディーラーマニュアルをよくお読みの上、正しくご使用ください。

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

危険

「死亡や重傷を負う恐れが大きい内容」です。

警告


「死亡や重傷を負う恐れがある内容」です。

注意

「傷害を負うことや、財産の損害が発生する恐れがある内容」です。

安全のために

警告

- 製品を取付ける際は、必ず説明書等に示している指示を守ってください。
その際、シマノ純正部品の使用をお勧めします。ボルトやナット等が緩んだり、破損しますと突然に転倒して重傷を負う場合があります。
また、調整が正しくない場合、不具合が発生し、突然に転倒して重傷を負う場合があります。
-  部品の交換など、メンテナンス作業中は、安全メガネまたはゴーグルを着用し、眼を保護してください。
- ディーラーマニュアルはよくお読みになった後、大切に保管してください。

以下に記載する事項は必ずお客様にも指導してください

■ロードホイール/MTBホイール共通事項

- 乗車前には車輪が固定されていることを確認してください。転倒して大怪我をすることがあります。
- クイックリリースの使用方法を誤りますと車輪の脱落等により重傷を負うことがあります。クイックリリースの取扱説明書を十分にお読みください。
- 乗車前にはスポークの折れ、緩み、リム面のへこみ、キズ、割れなどがないかどうか車輪を点検し、これらの症状がある場合は使用しないでください。

■ロードホイールに関する事項

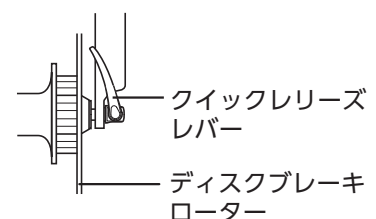
- 車輪は舗装路用に設計されています。未舗装路で使用されると車輪の変形あるいは破損により転倒の恐れがあります。
- バルブ穴反対側についているくぼみは、リムの摩耗表示目安です。このくぼみが見えなくなったら使用を止めてください。使用し続けると、リムが破損し、転倒して怪我をすることがあります。

■MTBホイールに関する事項

- ディスクブレーキキャリパー、ディスクブレーキローターはブレーキ操作により高温になりますので、乗車中、あるいは下車後すぐに触れないでください。やけどを負う恐れがあります。ブレーキシステムの整備は温度が十分に下がったことを確認してから行ってください。
- ディスクブレーキの取扱説明書も十分にお読みください。

< WH-M785-F/WH-M788-R/WH-M785-R >

- ディスクブレーキローター側にクイックリリースレバーがある場合はディスクブレーキローターと干渉する恐れがあり危険です。手のひらを使ってクイックリリースレバーを力いっぱい強く締めても、クイックリリースレバーがディスクブレーキローターに干渉しない事を確認してください。ディスクブレーキローターに干渉する場合は使用を中止して販売店または代理店へご相談ください。

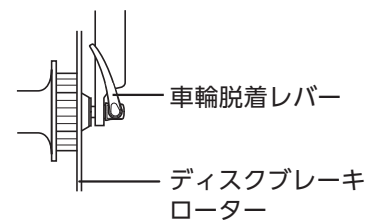


< WH-M785-F >

- 車輪はクロスカンントリー用に設計されています。ダウンヒル用に使用されると車輪の変形、あるいは破損により転倒の恐れがあります。

< WH-M788-F15/WH-M785-F15 >

- WH-M788-F15はトレイル用に、WH-M785-F15はクロスカンントリー用に設計されています。ダウンヒル、フリーライド用に使用されると車輪の変形、あるいは破損により転倒の恐れがあります。
- WH-M788-F15/WH-M785-F15はダウンヒル、フリーライド用に設計されていないので走行状況によりハブ取付軸に亀裂が入り結果、軸が折れて転倒し重傷を負ったり死亡事故につながる恐れがあります。乗車前にハブ取付け軸に亀裂が無いかどうか十分確認し、不具合を発見した時は使用を中止してください。
- WH-M788-F15/WH-M785-F15は、専用のフロントフォークおよびE-Thruとの組み合わせでのみご使用になれます。それ以外のフロントフォークおよび固定軸との組み合わせでは、自転車の乗車中に車輪が自転車から外れ、重傷を負うことがあります。
- 前車輪の固定方法と固定トルクはそれぞれの前サスペンションフォークによって異なります。前車輪を前サスペンションフォークに取付ける際は必ず前サスペンションフォークの取扱説明書に示している指示を守ってください。取扱いが適切でないと前車輪が脱落して重傷を負う恐れがあります。
- ディスクブレーキローター側に車輪脱着レバーがある場合はディスクブレーキローターと干渉する恐れがあり危険です。手のひらを使って車輪脱着レバーを力いっぱい強く締めても、車輪脱着レバーがディスクブレーキローターに干渉しない事を確認してください。ディスクブレーキローターに干渉する場合は使用を中止して販売店または代理店へご相談ください。



- 車輪脱着レバーの使用方法を誤りますと車輪の脱落等により重傷を負うことがあります。

< WH-M788-R/WH-M785-R >

- WH-M788-Rはトレイル用に、WH-M785-Rはクロスカンントリー用に設計されています。ダウンヒル、フリーライド用に使用されると車輪の変形、あるいは破損により転倒の恐れがあります。
- WH-M788-R/WH-M785-Rはダウンヒル、フリーライド用に設計されていないので走行状況によりハブ取付軸に亀裂が入り結果、軸が折れて転倒し重傷を負ったり死亡事故につながる恐れがあります。乗車前にハブ取付け軸に亀裂が無いかどうか十分確認し、不具合を発見した時は使用を中止してください。

自転車への組付け、整備に関する事項

■ロードホイールに関する事項

- ボトムリンク式サスペンションフォークはサスペンションの作動によりハブ軸とブレーキシューの間隔が変化します。ブレーキをかけた時にブレーキシューとスポークが接触する恐れがありますので合わせて使用しないでください。

■MTBホイールに関する事項

- 車輪はディスクブレーキ専用車輪です。リムブレーキには対応しません。

注 意

以下に記載する事項は必ずお客様にも指導してください

■ロードホイール/MTBホイール共通事項

- タイヤに表示されている適切な空気圧で使用してください。

■ロードホイールに関する事項

< WH-6700 >

- リムテープは使用しないでください。タイヤの脱着が困難になり、その際タイヤチューブを傷つけることがあり、突然のパンクによる転倒などの恐れがあります。

< WH-RS80-C50/WH-RS80-A-C24/WH-R501-30/WH-R501/WH-RS30-A/WH-RS10-A >

- 突然のパンクにより転倒等の恐れがありますので、リムには高圧に耐えうるリムテープを使用してください。また一度車輪から取外したリムテープの再使用もお勧めできません。再使用されると突然のパンクにより転倒等の恐れがあります。
- リムテープを交換する際はリムサイズに合ったものを使用してください。サイズが合わないリムテープを使用すると、突然のパンクにより転倒等の恐れがあります。

■MTBホイールに関する事項

- リムテープは使用しないでください。タイヤの脱着が困難になり、その際タイヤチューブを傷つけることがあり、突然のパンクによる転倒などの恐れがあります。
- スポークテンション調整の場合はプラグを締過ぎないようにご注意ください。締過ぎると、リムが破損する恐れがありますので、慎重に作業してください。
- パンク修理剤をご使用になる場合は、販売店または代理店へご相談ください。

慣らし運転

- ディスクブレーキには慣らし運転期間があり、慣らし運転がすすむにつれブレーキ制動力が上がっていきますので、ブレーキの制動力増加に対し注意を払い順応してください。ブレーキパッドあるいはディスクブレーキローターを交換した場合も同様です。

自転車への組付け、整備に関する事項

■MTBホイールに関する事項

- 専用工具 (TL-FC36) でローター取付けリング脱着時、手がディスクブレーキローター外周部に触れないよう注意してください。手を切る恐れがありますので保護手袋を着用してください。

使用上の注意

以下に記載する事項は必ずお客様にも指導してください

■ロードホイール/MTBホイール共通事項

- ハブの内部には注油は行わないでください。グリスが流れ出します。
- 初期フレが出た場合か、使用開始から1,000Km走行を目安に販売店でスポークテンション調整をお勧めいたします。
- 別売品の専用スポークレンチがあります。
- 通常の使用において自然に生じた摩耗および品質の経年劣化は保証いたしません。

■ロードホイールに関する事項

- 乗車前にはブレーキシューの表面に金属片等が付着していないかどうか確認してください。ブレーキをかけた時にリムにキズがつく恐れがあります。
- 当社、R55HC (ハイパフォーマンス) シューはウエットでの効きを高める材料を使用していますが、リムの摩耗は早くなります。
R55HCシューとの組み合わせによるリムの摩耗は当社では保証いたしません。

< WH-6700 >

- 一般的なアルカリ性パンク修理剤は、リムが腐食してエア漏れを起こす可能性があるため使用をお勧めできません。

■MTBホイールに関する事項

- リムの継ぎ目に塗られているエアシール剤が剥がれますので洗浄液や薬品等を使用して車輪を拭かないでください。
- リムのステッカーが剥がれますので洗浄液や薬品等を使用して車輪を拭かないでください。
- 一般的なアルカリ性パンク修理剤は、リムが腐食してエア漏れを起こす可能性があるため使用をお勧めできません。

自転車への組付け、整備に関する事項

■ロードホイール/MTBホイール共通事項

- 車輪の回転が重くなった場合はグリスアップを行ってください。
- 対応リフレクター、スポークプロテクターはスペック表 (<http://www.si.shimano.com>)でご確認ください。

■ロードホイールに関する事項

- シマノ製純正のスポーク、ニップルの使用をお勧めします。リム、ハブ体などを破損する恐れがあります。
- ニップルはスポークテンションを上げるために径を大きくして回転させやすい様になっていますが、スポークテンション調整の場合は締過ぎないようにご注意ください。締過ぎると、リムが破損する恐れがありますので、慎重に作業してください。(認定店に調整を依頼されることをお勧めします。)

< WH-6700 >

- WH-6700の振取り、及びスポークテンション調整はリム側のプラグで行ってください。
- シマノ製純正のスポーク、プラグ、ワッシャーを使用してください。ハブ体のスポーク挿入部分を破損する恐れがあります。
- プラグはスポークテンションを上げるために径を大きくして回転させやすい様になっていますが、スポークテンション調整の場合は締過ぎないようにご注意ください。締過ぎると、リムが破損する恐れがありますので、慎重に作業してください。(認定店に調整を依頼されることをお勧めします。)

■MTBホイールに関する事項

- シマノ製純正のスポーク、ナット、プラグ、ワッシャーを使用してください。リム、ハブ体を破損する恐れがあります。

手順の説明を主体としていますので、製品イメージが異なる場合があります。



ROAD

取付け

■ タイヤサイズ

各ホイールの推奨組付けタイヤサイズは以下のとおりです。

モデル名	タイヤサイズ
WH-6700	700C (19 - 25C)
WH-RS80-C50	
WH-RS80-A-C24	
WH-RS30	
WH-RS10	
WH-R501-30	700C (19 - 28C)
WH-R501	

■ 使用工具一覧

製品の組立には下記の工具が必要です。

使用箇所	工具
ロックリング	TL-LR10/LR15

WH-6700/WH-RS80-C50/WH-RS80-A-C24/WH-RS30-A/WH-RS10-A/WH-R501-30/WH-R501

上記のホイールは8段、9段、10段に対応しています。(ジュニア用以外の10段スプロケットの場合は付属の1mmスペーサーをご使用ください。)

チェーン、カセットスプロケットなどの組み合わせについてはテクニカルインフォメーションによりご確認ください。

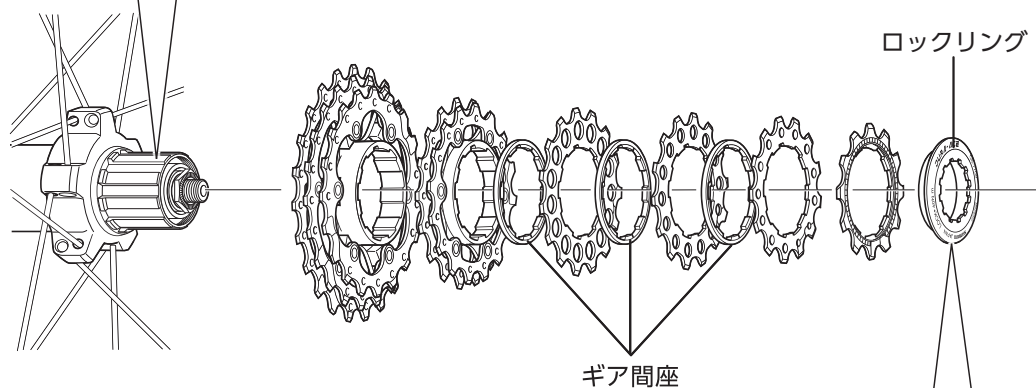
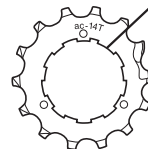
■ HGギアの取付け

各ギアとも刻印のある面をトップ側にし、フリーホイール部のA部（溝幅が広いところ）とギアの凸部の広いところを合わせてセットしてください。

1ヶ所だけ
溝幅が広い。



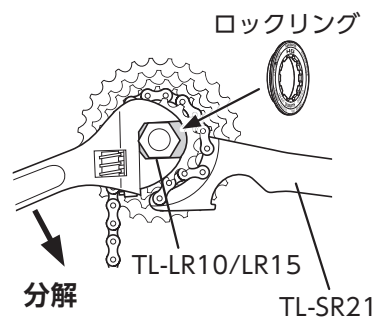
幅広部



- HGギアの取付けは専用工具TL-LR10/LR15でロックリングを締付けます。

締付けトルク:
30.0 - 50.0 N·m {300 - 500 kgf·cm}

- HGギアの交換は、専用工具TL-LR10/LR15とTL-SR21でロックリングを取外します。



メンテナンス

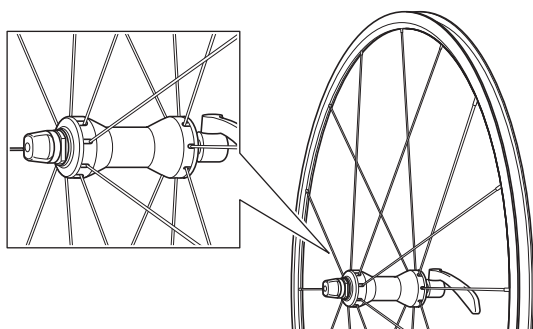
■ スポークの編み方

図のように編んでください。

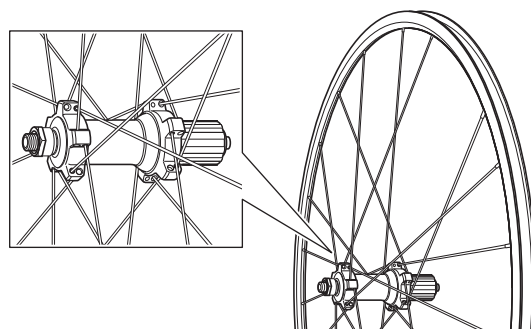
WH-6700

< 前用 >

前用は左右共にラジアル組になっています。



< 後用 >



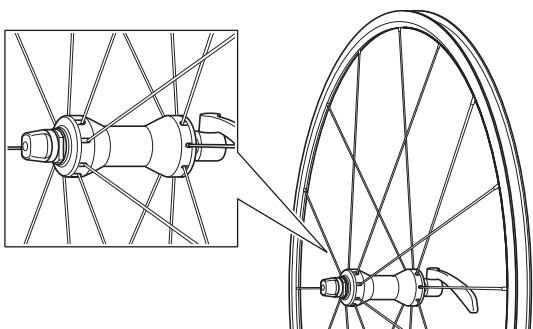
スポークテンション値		
前用	後用	
	右(ギア)側	左側
980 - 1400N (98 - 140kgf)	1000 - 1600N (100 - 160kgf)	600 - 1100N (60 - 110kgf)

*この数値は目安です。

WH-RS80-C50/WH-RS80-A-C24

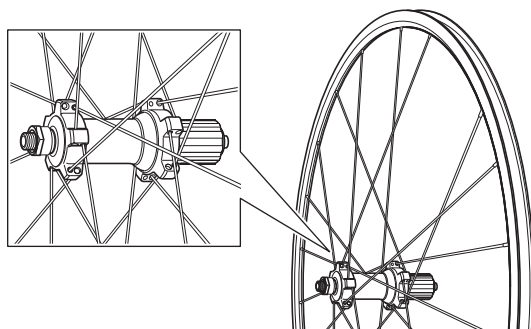
< 前用 >

前用は左右共にラジアル組になっています。



< 後用 >

後用は左右共にタンジェント組になっています。



※図はWH-RS80-A-C24です。

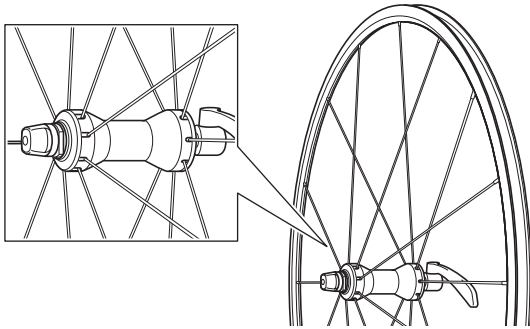
スポークテンション値		
前用	後用	
	右(ギア)側	左側
1000 - 1400N (100 - 140kgf)	1200 - 1500N (120 - 150kgf)	600 - 900N (60 - 90kgf)

*この数値は目安です。

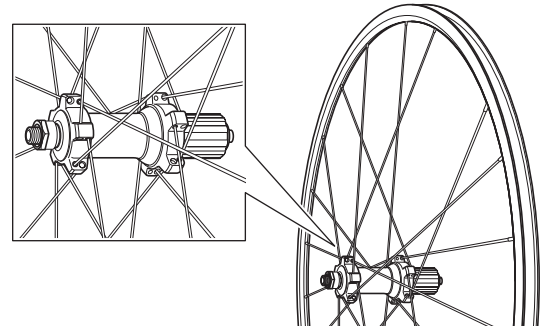
WH-RS30

< 前用 >

前用は左右共にラジアル組みになっています。



< 後用 >



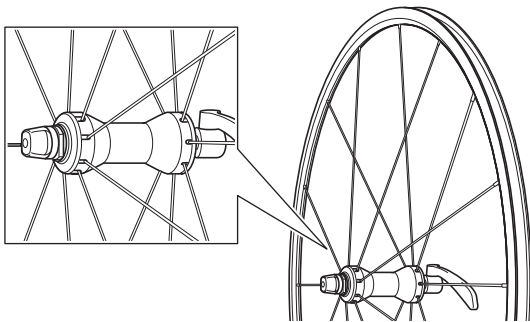
スポークテンション値		
前用	後用	
	右(ギア)側	左側
980 - 1400N (98 - 140kgf)	1000 - 1600N (100 - 160kgf)	600 - 1100N (60 - 110kgf)

*この数値は目安です。

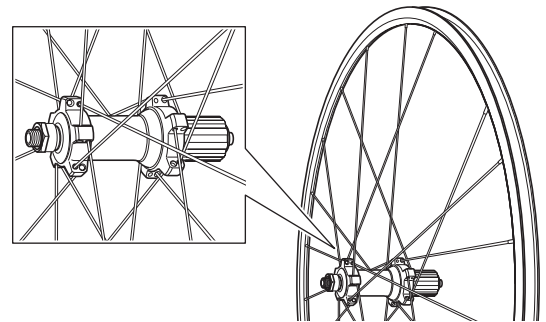
WH-RS10

< 前用 >

前用は左右共にラジアル組みになっています。



< 後用 >



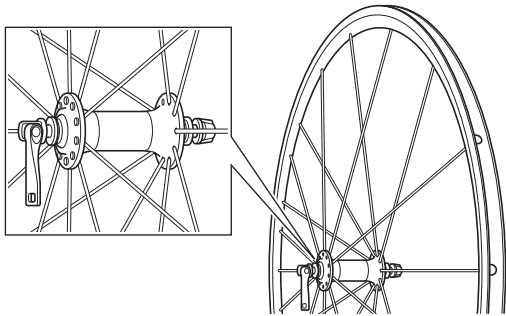
スポークテンション値		
前用	後用	
	右(ギア)側	左側
980 - 1400N (98 - 140kgf)	1000 - 1600N (100 - 160kgf)	600 - 1100N (60 - 110kgf)

*この数値は目安です。

WH-R501-30/WH-R501

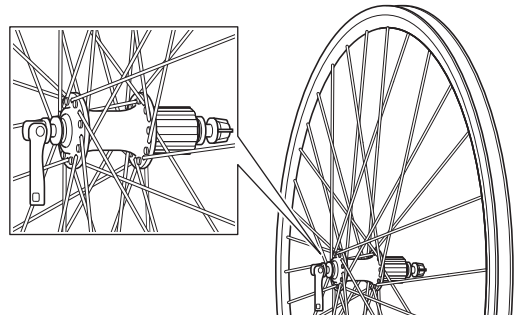
< 前用 >

前用は左右共にラジアル組みになっています。



< 後用 >

後用は左右共にタンジェント組みになっています。



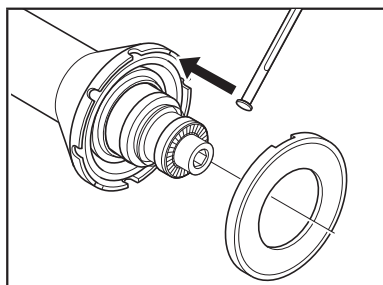
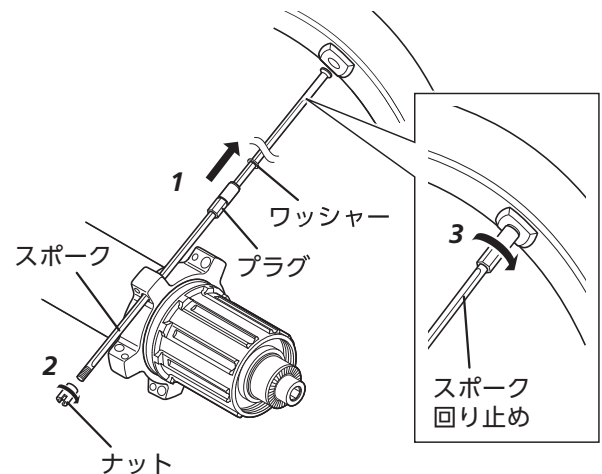
スポークテンション値		
前用	後用	
	右(ギア)側	左側
800 - 1200N (80 - 120kgf)	900 - 1500N (90 - 150kgf)	500 - 1000N (50 - 100kgf)

*この数値は目安です。

■ スポークの交換

WH-6700

1. スポークに、ワッシャー、プラグを通します。
2. ハブフランジの穴にスポークを通した後、ナットを組付けます。
組付ける時にはスポーク回り止め工具を使用してスポークが回らないように固定し、ナットの溝にドライバ等を使用してナットをねじ込んでください。
3. プラグをリム側のねじ穴へ時計回りにねじ込みます。
このときスポーク回り止めを使用して、スポークが回らないようにしてください。



注意：

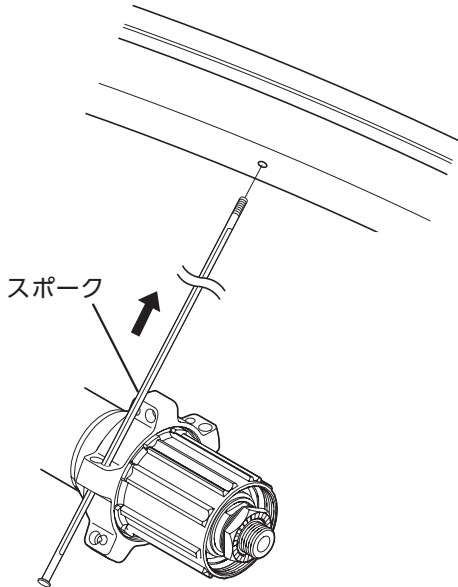
- ワッシャーを忘れるとスポークテンションの調整ができなくなりますので必ずワッシャーを入れてください。
- ナットはねじ山の最後まで締込んでください。

フロント側は破損の恐れがあるため、スポークの頭をハブ体の溝にきちんとおさめてください。

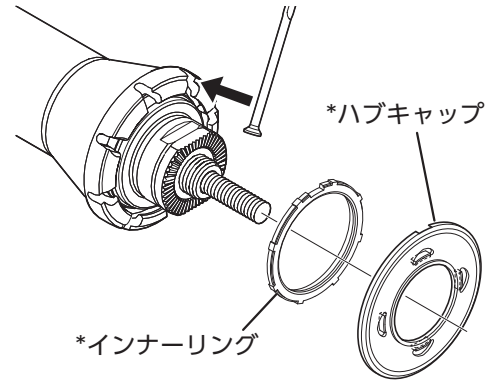
図のようにスポークをハブに通して、取付けてください。

* 図はWH-RS80-A-C24です。

< 後用 >

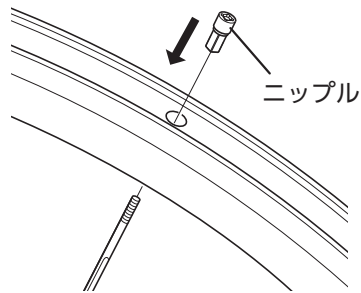


< 前用 >



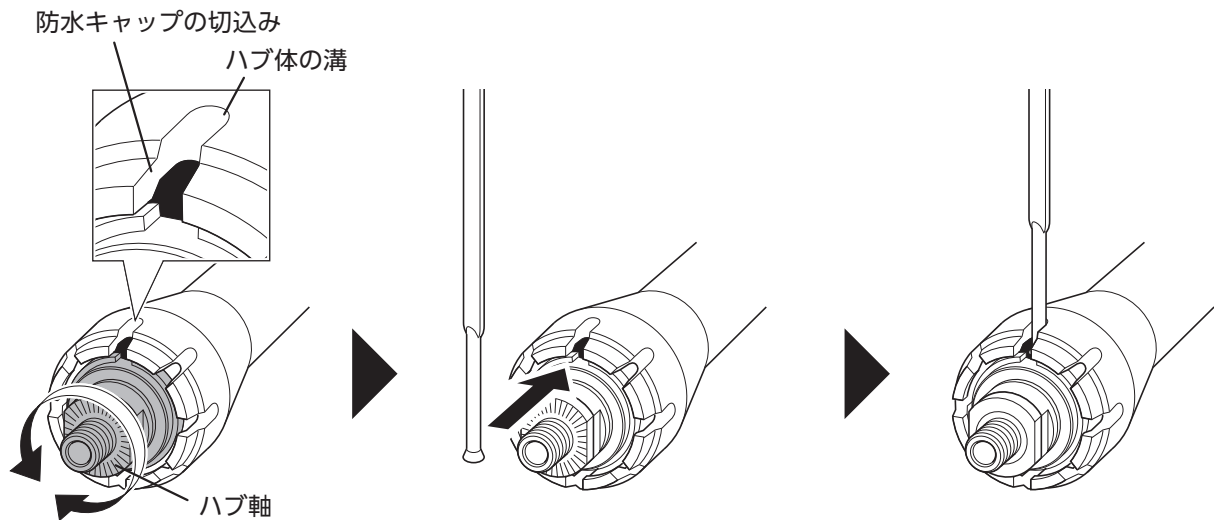
フロント側は破損の恐れがあるため、スポークの頭をハブ体の溝にきちんとおさめてください。

* インナーリングはハブ体のツメの内側へ、ハブキャップのツメはインナーリングに完全におさまるように取付けてください。



< 前輪のスポーク交換 >

ハブ軸を回し、防水キャップの切込みとハブ体の溝の角度を合わせてスポークの頭をハブ体の溝に確実におさめてください。

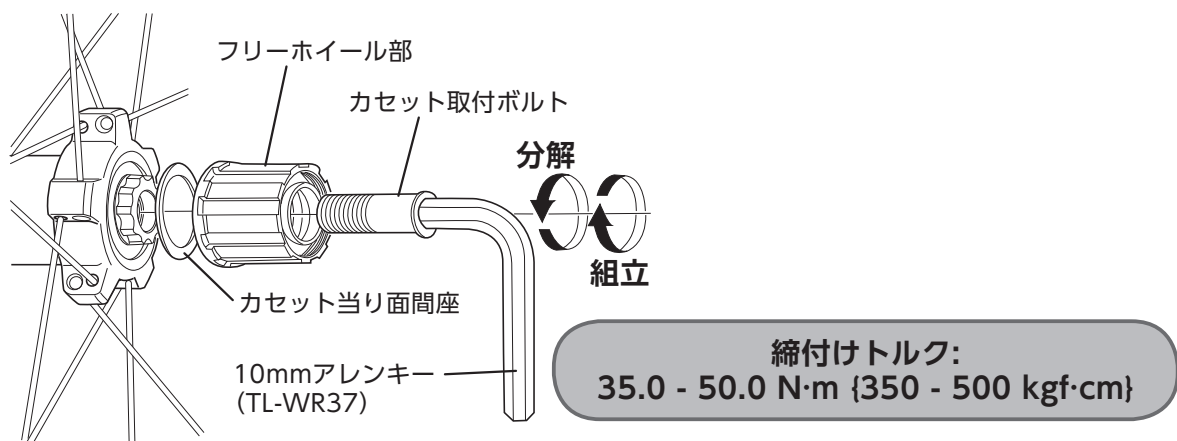


注意：

防水キャップの切込みとハブ体の溝の角度が合っていないとスポークの取付け、取外しが出来ません。

■ フリーホイール部の交換

ハブ軸を抜き取った後、フリーホイール部内のカセット取付ボルトを取外し、フリーホイール部を交換してください。



注意：

フリーホイール部の分解は、トラブルの原因となりますので行わないでください。

■ チューブレスタイヤの脱着方法

安全のために必ずお守りください

警告

- 取扱い説明書はよくお読みになった後、大切に保管してください。

注意

- インナーチューブ使用時にもリムテープは使用しないでください。タイヤの脱着が困難になり、その際タイヤチューブを傷つけることがあり、突然のパンクによる転倒などの恐れがあります。

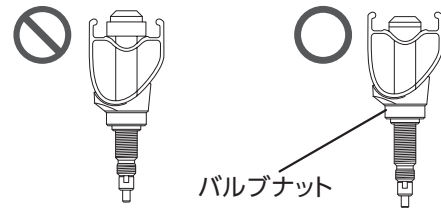
使用上の注意

- タイヤの脱着は必ず手で行ってください。タイヤレバーやその他のツールを決して使用しないでください。タイヤとリムのエアシール部にダメージを与え、空気漏れを起こす恐れがあります。
- バルブナットを締めすぎるとバルブシールが変形して、空気漏れを起こす恐れがあります。
- タイヤがはめにくい時は、水あるいは石けん水を使用し、すべりをよくしてください。
- 通常の使用において自然に生じた摩耗及び品質の経年劣化は保証いたしません。

使用方法

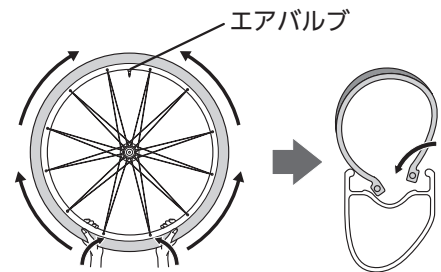
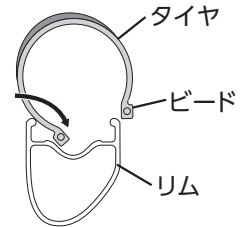
1. チューブレスバルブの装着

- 図のようにバルブの向きに注意して取付けてください。バルブナットを締め込んだ時にバルブとバルブナットが共回りしていない事を確認してください。

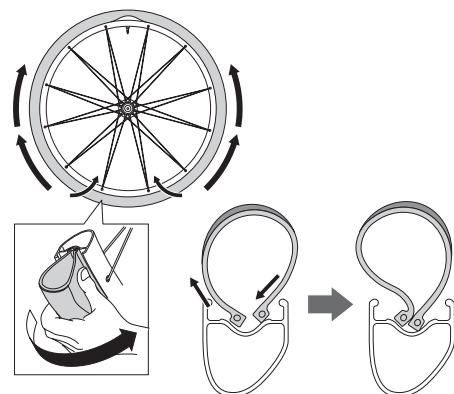


2. タイヤの装着

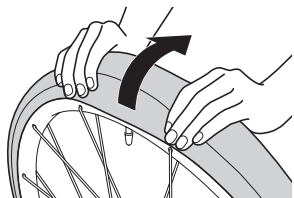
- 図のようにタイヤの片方のビードをはめ込みます。この時、タイヤビード部、リム及びバルブ部にゴミや傷がない事を確認してください。
- エアバルブの反対側からもう一方のビードをセットします。



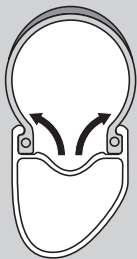
エアバルブ側はいれにくくなりますので、その場合反対側の入っているほうのビードを手で上に押し上げる動作をエアバルブのところまで繰り返します。



最後に図のように両手で
タイヤを握って、タイヤを
リムに入れます。

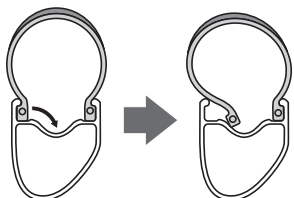


空気を入れてタイヤのビードを
図のようにリムにロックさせます。
この後一度空気を抜いてビードが
リムにロックされていることを確
認し、再度使用される空気圧まで
空気を入れてください。
ビードがロックされていないと空
気を抜いた時にビードがリムから
外れます。
(MAX:タイヤ空気圧 800kPa/116psi)



3. タイヤの取外し

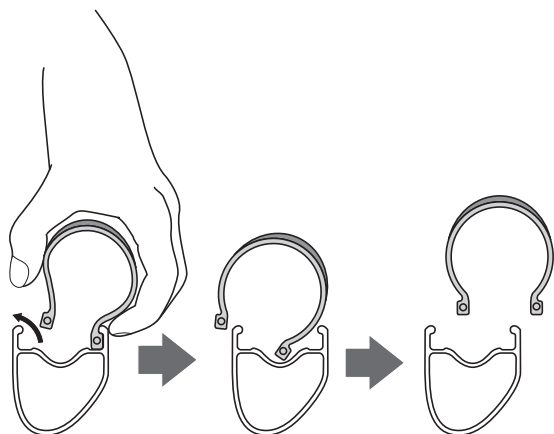
- タイヤの空気を抜いて
から片方のビードを図
のようにリムのハンプ
の内側の溝に落とし込
ませます。



注意:

ビードは必ず片側だけ落とし込んでください。両側を落
し込むとタイヤが外しにくくなります。両方落とし込んだ
場合はもう一度空気を入れてビードをロックさせ、タイヤ
の取外しの最初の手順に戻ってください。

- エアバルブ側から片方のビードを取外し、その後も
う一方のビードを取外します。



4. インナーチューブ使用時のご注意

- エアバルブのロックリングを緩め、エアバルブを外
します。
- 図のようにタイヤの片方のビード
をはめ込みます。



- リム外周部とタイヤビード部を十分に濡らし、少し膨
らませたインナーチューブをタイヤの中にすべらせる
ように装着します。
- インナーチューブのエアバルブがリムに対応するか
チェックしてください。
- エアバルブの反対側からビードをはめ込んでくださ
い。この時、チューブを挟まないように注意してくだ
さい。必要であれば、石けん水をお使いください。
- タイヤがロックされるまでインナーチューブを膨らま
せてください。
- 対応チューブの仕様については認定店にご相談くださ
い。



MTB

取付け

■ タイヤサイズ

各ホイールの推奨組み付けタイヤサイズは以下のとおりです。

モデル名	タイヤサイズ
WH-M785-F	26 × 1.5 - 2.25
WH-M785-R	
WH-M785-F15	
WH-M788-F15	26 × 1.95 - 2.5
WH-M788-R	

■ 使用工具一覧

製品の組立には下記の工具が必要です。

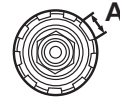
使用箇所	工具
ロックリング	TL-LR10/LR15

■ HGギアの取付け

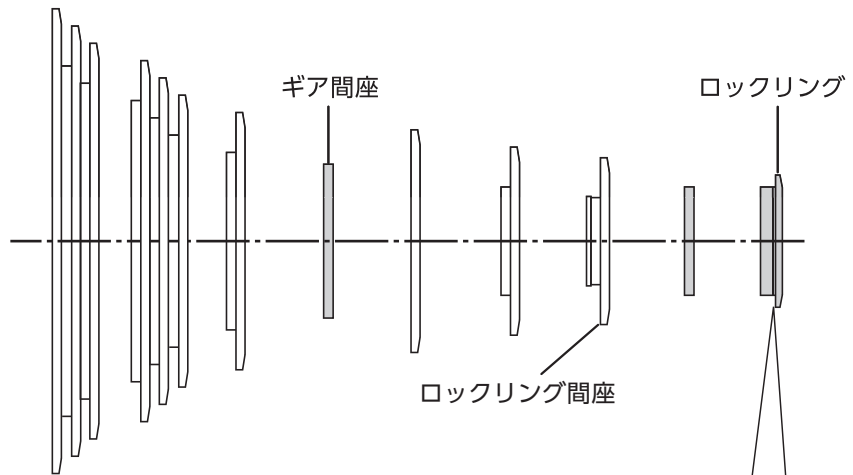
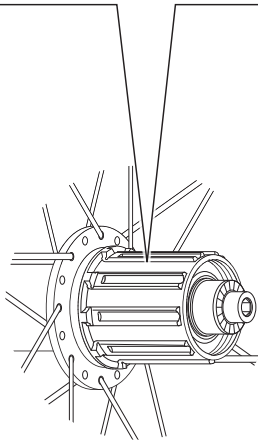
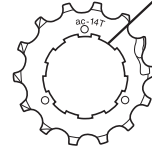
WH-M788-R/WH-M785-R

各ギアとも刻印のある面をトップ側にし、フリーホイール部のA部（溝幅が広いところ）とギアの凸部の広いところを合わせてセットしてください。

1ヶ所だけ
溝幅が広い。



幅広部

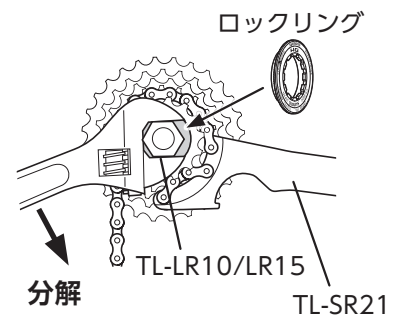


(bJ) 11 - 34T
(bk) 11 - 36T
(bL) 11 - 32T

- HGギアの実付けは専用工具TL-LR10/LR15でロックリングを締付けます。

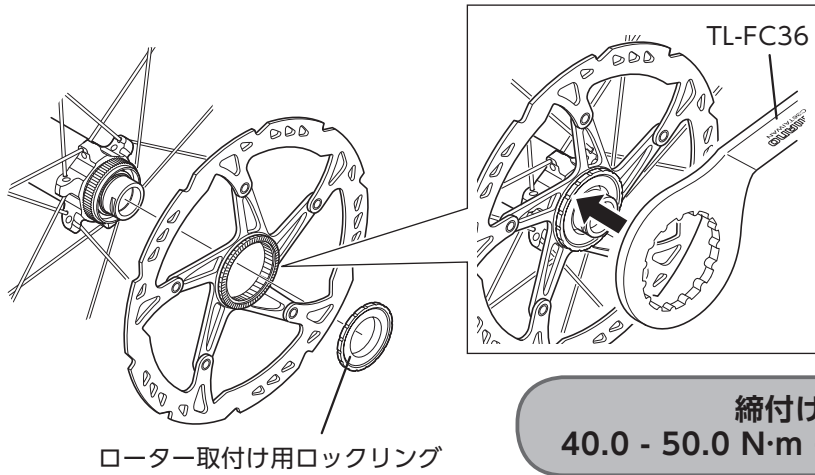
締付けトルク:
30.0 - 50.0 N·m {300 - 500 kgf·cm}

- HGギアの実換は専用工具TL-LR10/LR15とTL-SR21でロックリングを取外します。

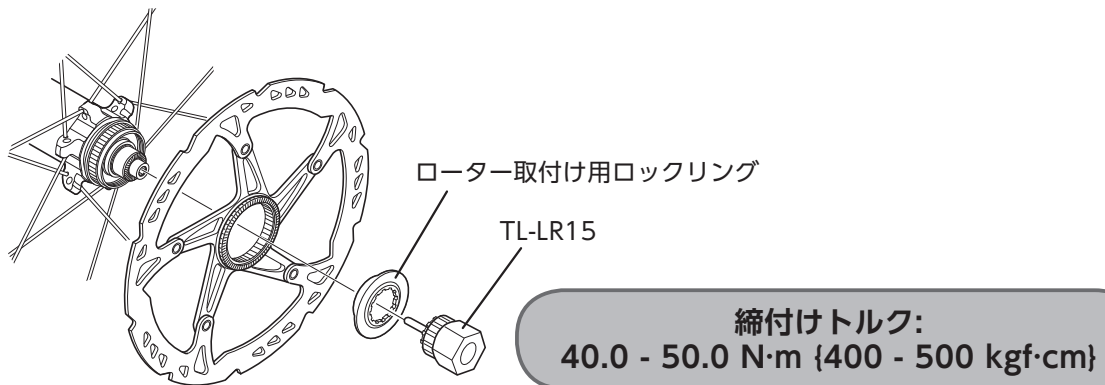


■ ディスクブレーキローターの取付け

WH-M788-F15/WH-M785-F15



WH-M785-F/WH-M788-R/WH-M785-R

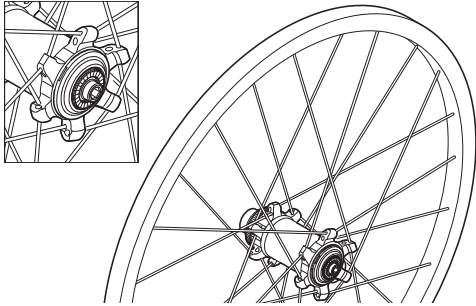


メンテナンス

■ スポークの編み方

図のように編んでください。

WH-M785-F

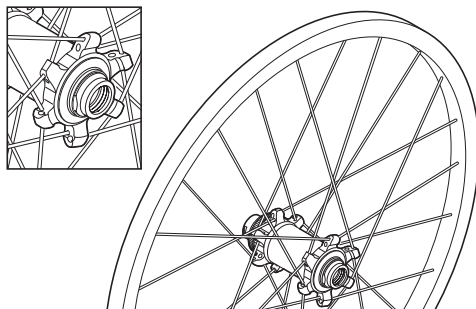


スポークテンション値	
右 (ギア) 側	左側
600 - 1000N (60 - 100kgf)	900 - 1350N (90 - 135kgf)

*この数値は目安です。

WH-M788-F15/WH-M785-F15

車輪組立時には組立工具TL-HB16を使用してください。

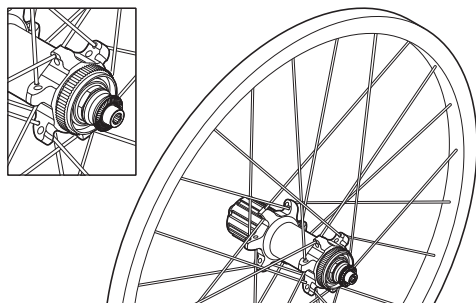


スポークテンション値	
右 (ギア) 側	左側
600 - 1000N (60 - 100kgf)	900 - 1350N (90 - 135kgf)

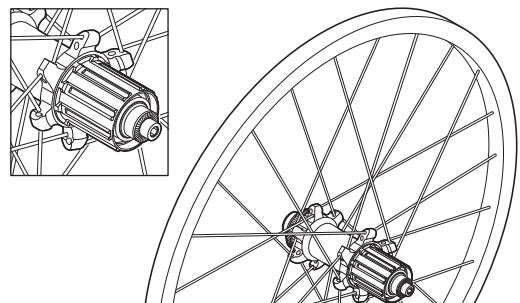
*この数値は目安です。

WH-M788-R/WH-M785-R

< 左側 >



< 右側 >



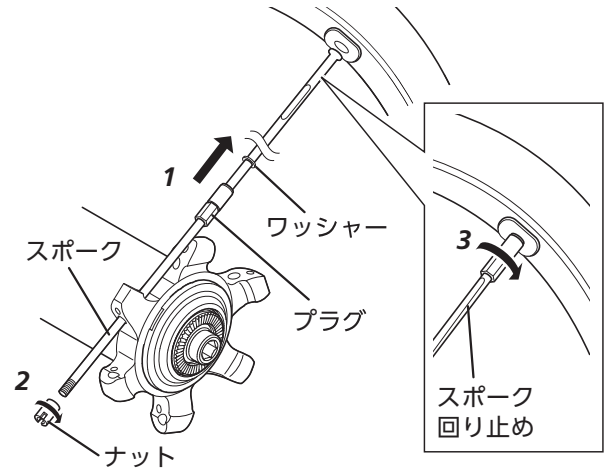
スポークテンション値	
左側	右 (ギア) 側
600 - 1000N (60 - 100kgf)	900 - 1350N (90 - 135kgf)

*この数値は目安です。

■ スポークの交換

WH-M785-F/WH-M788-F15/WH-M785-F15

1. スポークに、ワッシャー、プラグを通します。
2. ハブフランジの穴にスポークを通した後、ナットを組付けます。
組付ける時にはスポーク回り止め工具を使用してスポークが回らないように固定し、ナットの溝にドライバー等を使用してナットをねじ込んでください。
3. プラグをリム側のねじ穴へ時計回りにねじ込みます。
このときスポーク回り止めを使用して、スポークが回らないようにしてください。

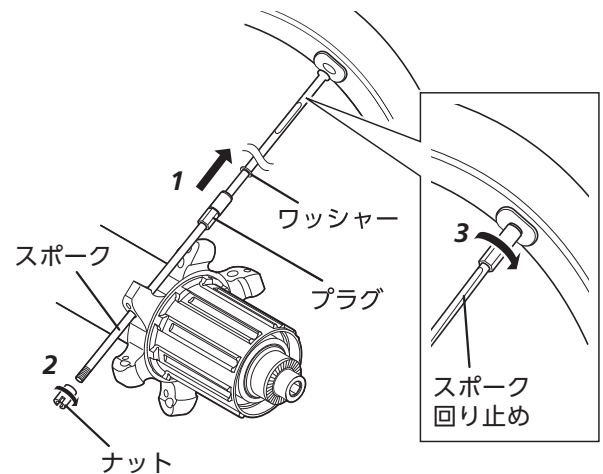


注意：

- ワッシャーを忘れるとスポークテンションの調整ができなくなりますので必ずワッシャーを入れてください。
- ナットはねじ山の最後まで締込んでください。

WH-M788-R/WH-M785-R

1. スポークに、ワッシャー、プラグを通します。
2. ハブフランジの穴にスポークを通した後、ナットを組付けます。
組付ける時にはスポーク回り止め工具を使用してスポークが回らないように固定し、ナットの溝にドライバー等を使用してナットをねじ込んでください。
3. プラグをリム側のねじ穴へ時計回りにねじ込みます。
このときスポーク回り止めを使用して、スポークが回らないようにしてください。



注意：

- ワッシャーを忘れるとスポークテンションの調整ができなくなりますので必ずワッシャーを入れてください。
- ナットはねじ山の最後まで締込んでください。

■ 分解と組立

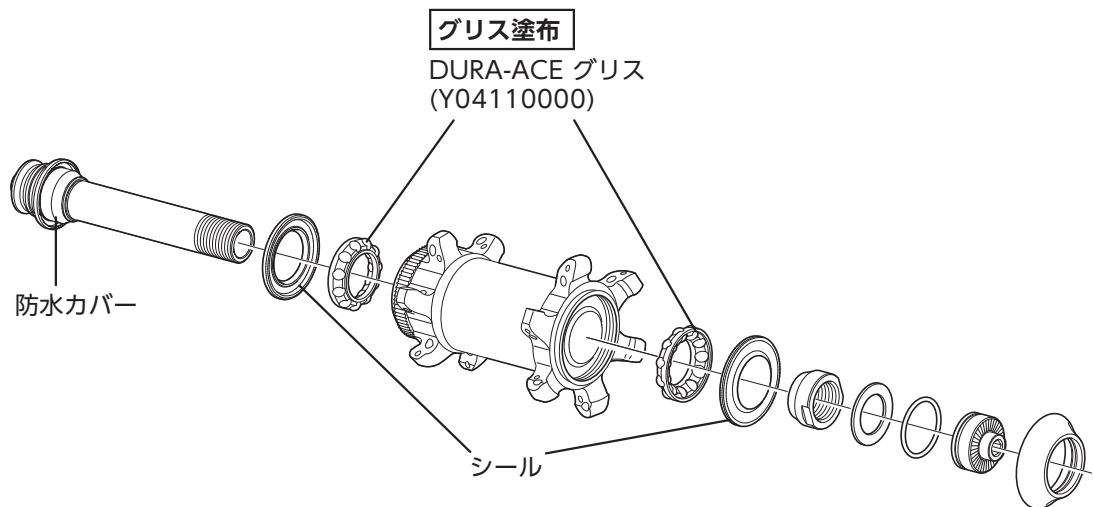
WH-M785-F

注意：

- フロントハブはハブ体左側（ローター固定セレーション側）からの分解はできません。
- シール部の脱着は変形に十分気をつけて慎重に行ってください。再組立時にはシールの表裏を確認し、奥の当りまで組付けてください。
- ハブ軸にかしめている防水カバーは分解しないでください。

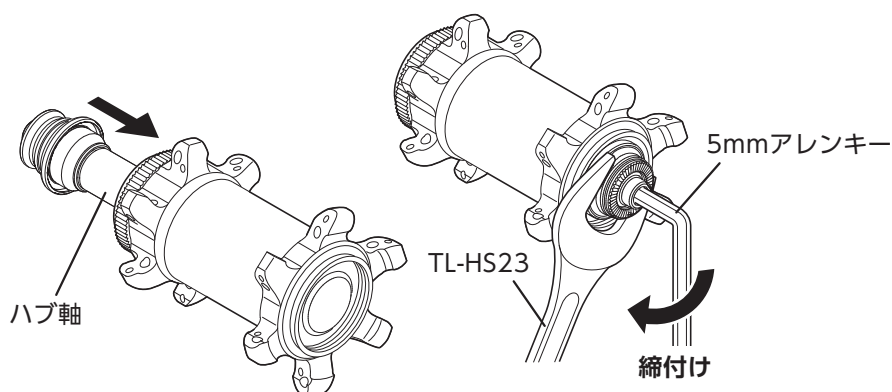
< 分解 >

図のように分解できます。定期的に各部のグリスアップをしてください。



< 組立 >

図のようにハブ軸を取付け専用工具TL-HS23/18mmと5mmアレンキーを使用してロックナットを締付けダブルロックしてください。



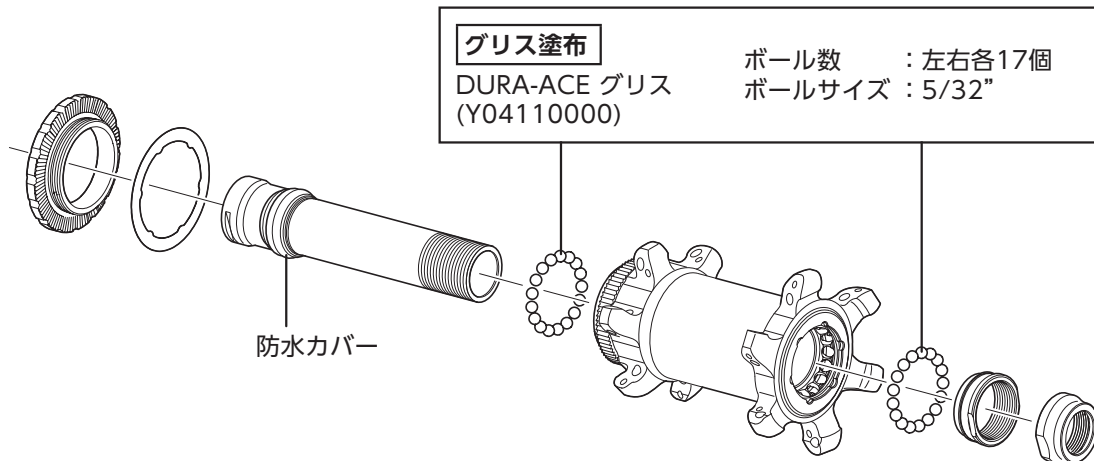
締付けトルク：
15.0 - 17.0 N·m {150 - 170 kgf·cm}

注意：

- ハブ体左側（ローター固定セレーション側）からの分解はできません。
- 軸パイプにかしめている防水カバーは分解しないでください。

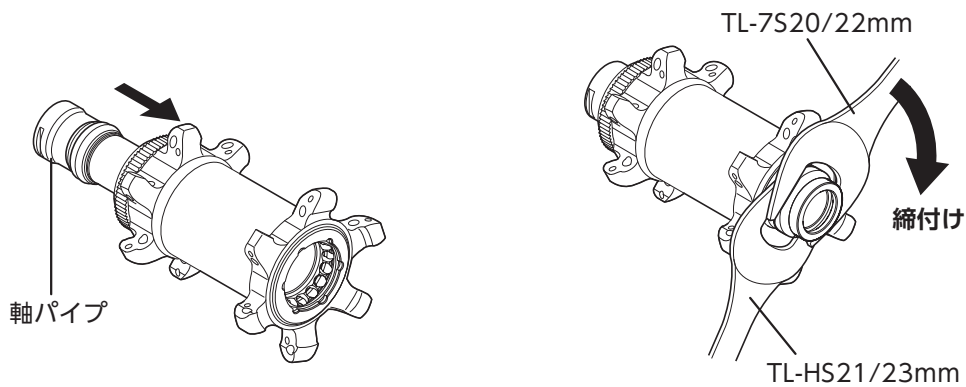
< 分解 >

図のように分解できます。定期的に各部のグリスアップをしてください。



< 組立 >

図のように軸パイプを取付け専用工具を使用してロックナットを締付けダブルロックしてください。



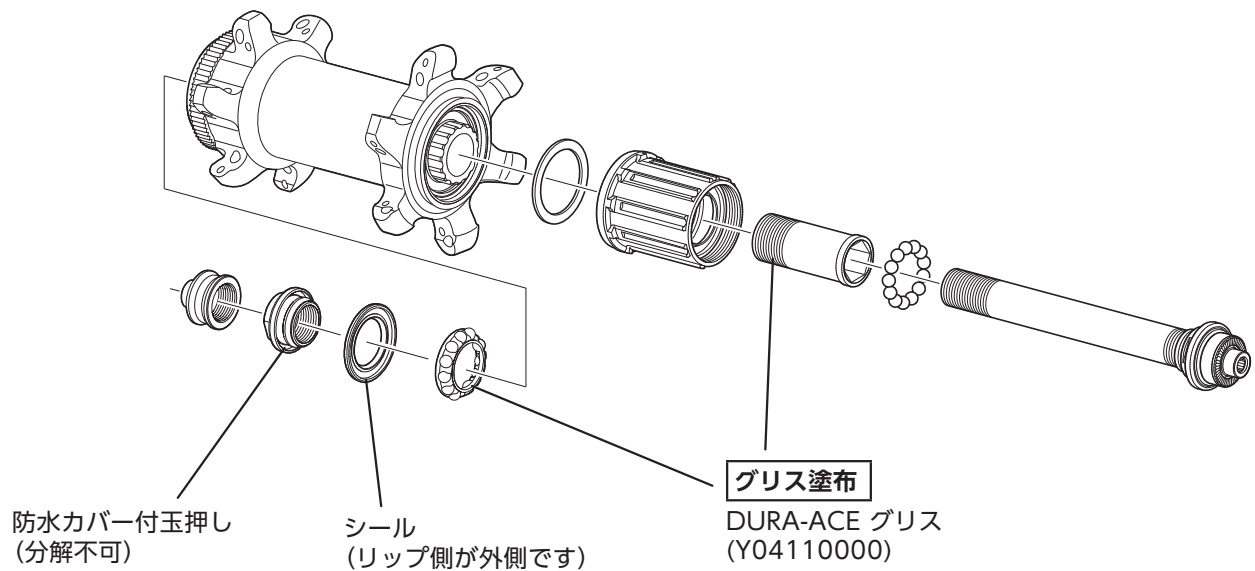
締付けトルク:
 21.0 - 26.0 N·m {210 - 260 kgf·cm}

注意：

- シール部の脱着は変形に十分気をつけて慎重に行ってください。再組立時にはシールの表裏を確認し、奥の当りまで組付けてください。
- 玉押しにかしめている防水カバーは分解しないでください。

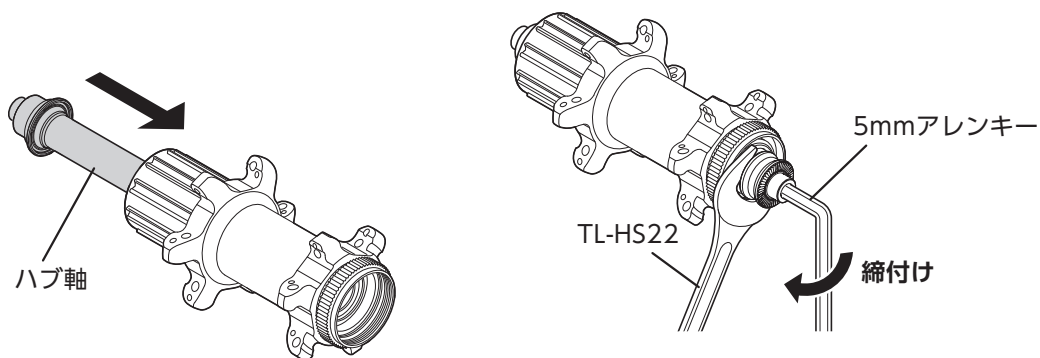
< 分解 >

図のように分解できます。定期的に各部のグリスアップをしてください。



< 組立 >

図のようにハブ軸を取付け専用工具TL-HS22/17mmと5mmアレンキーを使用してロックナットを締付けダブルロックしてください。

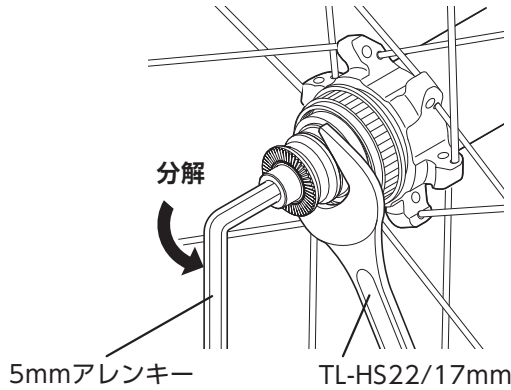


締付けトルク:
15.0 - 20.0 N·m {150 - 200 kgf·cm}

■ フリーホイール部の交換

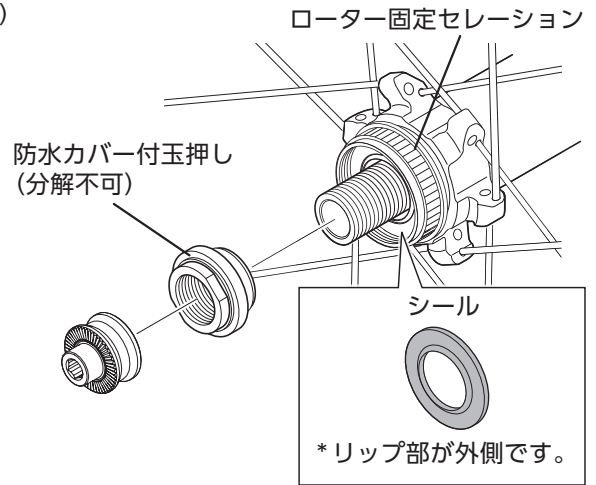
1. 最初に図の手順でハブ軸を抜き取ってください。
フリーホイール部側のダブルロック部は分解できません。

(1)

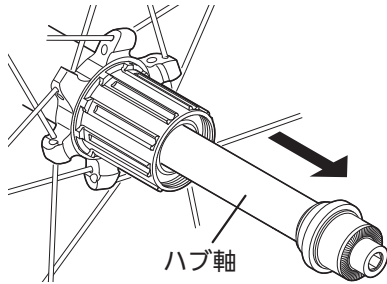


左側締付けトルク:
15.0 - 20.0 N·m {150 - 200 kgf·cm}

(2)



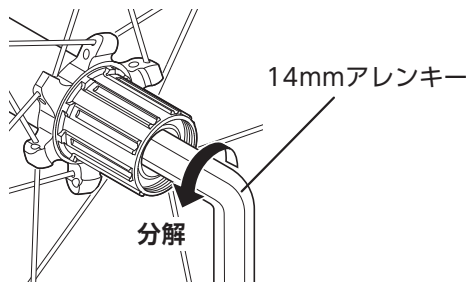
(3)



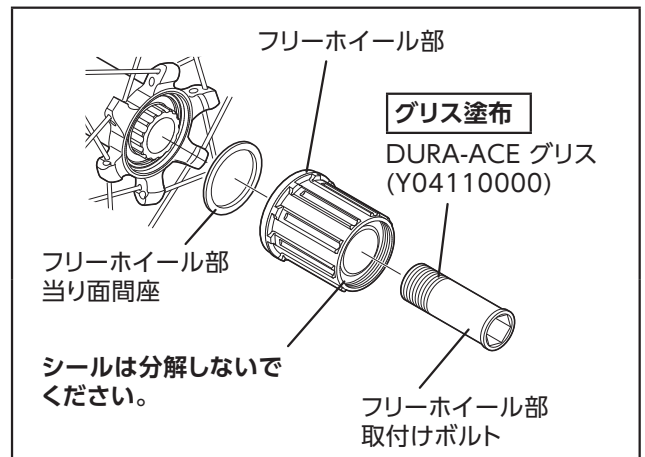
注意：

- シール部の脱着は変形に十分気をつけて慎重に行ってください。再組立時にはシールの表裏を確認し、奥の当りまで組付けてください。
- 玉押しにかしめている防水カバーは分解しないでください。

2. ハブ軸を抜き取った後、フリーホイール部内のフリーホイール部取付けボルトを外し、フリーホイール部を交換してください。



締付けトルク:
45.0 - 50.0 N·m {450 - 500 kgf·cm}



注意：

フリーホイール部交換時はフリーホイール部取付けボルトもあわせて交換してください。ゆるみやかじりつきの原因になりますので、フリーホイール部取付けボルトのねじ部には必ずグリスを塗布してください。
フリーホイール部の分解は、トラブルの原因となりますので行わないでください。

■ チューブレスタイヤの脱着方法

安全のために必ずお守りください

⚠ 警告

- 取扱説明書はよくお読みになった後、大切に保管してください。

⚠ 注意

- インナーチューブ使用時にもリムテープは使用しないでください。タイヤの脱着が困難になり、その際タイヤチューブを傷つけることがあり、突然のパンクによる転倒などの恐れがあります。

注意

- タイヤの脱着は必ず手で行ってください。タイヤレバーやその他のツールを決して使用しないでください。タイヤとリムのエアシール部にダメージを与え、空気漏れを起こす恐れがあります。
- バルブナットを締めすぎるとバルブシールが変形して、空気漏れを起こす恐れがあります。

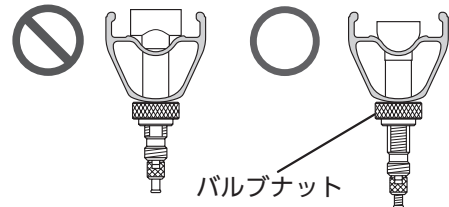
使用上の注意

- タイヤがはめにくい時は、水あるいは石けん水を使用してすべりをよくしてください。
- シマノ「シーリングチューブレスシステム」ホイールにおいて、チューブレスタイヤでシーラントを併用する際、タイヤがはめにくい時やタイヤに空気が入りにくい場合はビード部にシーラントを塗布してください。
- 通常の使用において自然に生じた摩耗及び品質の経年劣化は保証いたしません。

使用方法

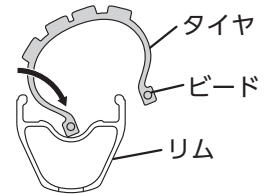
1. チューブレスバルブの装着

- 図のようにバルブの向きに注意して取付けてください。
バルブナットを締め込んだ時にバルブとバルブナットが共回りしていない事を確認してください。

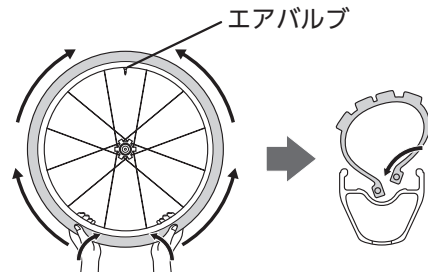


2. タイヤの装着

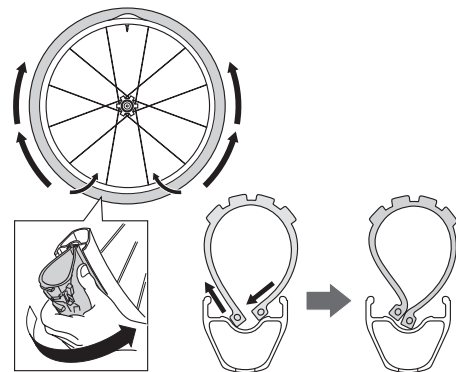
- 図のようにタイヤの片方のビードをはめ込みます。
この時、タイヤビード部、リム及びバルブ部にゴミや傷がない事を確認してください。



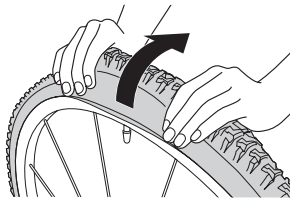
- エアバルブの反対側からもう一方のビードをセットします。



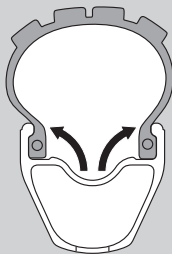
エアバルブ側はいれにくくなりますので、その場合反対側の入っているほうのビードを手で上に押し上げる動作をエアバルブのところまで繰り返します。



最後に図のように両手で
タイヤを握って、タイヤを
リムに入れます。

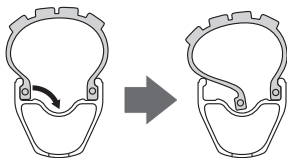


空気を入れてタイヤのビードを
図のようにリムにロックさせます。
この後一度空気を抜いてビードが
リムにロックされていることを確
認し、再度使用される空気圧まで
空気を入れてください。
ビードがロックされていないと空
気を抜いた時にビードがリムから
外れます。
(MAX: タイヤ空気圧 400kPa/58psi)



3. タイヤの取外し

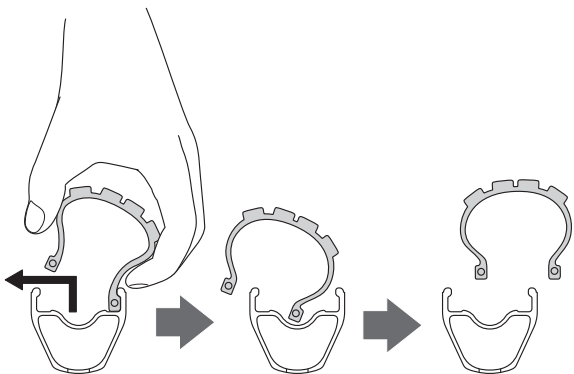
- タイヤの空気を抜いて
から片方のビードを図
のようにリムのランプ
の内側の溝に落とし込
ませます。



注意:

ビードは必ず片側だけ落とし込んでください。両側を落と
し込むとタイヤが外しにくくなります。両方落とし込んだ
場合はもう一度空気を入れてビードをロックさせ、タイヤ
の取外しの最初の手順に戻ってください。

- エアバルブ側から片方のビードを取外し、その後も
う一方のビードを取外します。



4. インナーチューブ使用時のご注意

- エアバルブのロックリングを緩め、エアバルブを外
します。
- 図のようにタイヤの片方のビード
をはめ込みます。



- リム外周部とタイヤビード部を十分に濡らし、少し膨
らませたインナーチューブをタイヤの中にすべらせる
ように装着します。
- インナーチューブのエアバルブがリムに対応するか
チェックしてください。
- エアバルブの反対側からビードをはめ込んでくださ
い。この時、チューブを挟まないように注意してくだ
さい。必要であれば、石けん水をお使いください。
- タイヤがロックされるまでインナーチューブを膨らま
せてください。
- インナーチューブ使用時にもリムテープは使用しない
でください。タイヤの脱着が困難になり、その際タイ
ヤチューブを傷つけることがあり、突然のパンクに
よる転倒などの恐れがあります。
- 対応チューブの仕様については認定店にご相談くだ
さい。



製品改良のため、仕様の一部を予告なく変更することがあります。

お客様相談窓口

☎ 0570-031961 Fax. 072-243-7847

株式会社 **シマノ**

堺市堺区老松町3丁77番地 〒590-8577